

## 途上国アルバム：チュニジア

春藤健二

プリンシパル・クレジットリスク・オフィサー  
アフリカ開発銀行 クレジット・リスクマネジメント部  
在チュニジア・チュニス

本部のあるアビジャンからチュニジアのチュニスに赴任したのが 2017 年の夏なので、チュニスにもう 5 年程住んでいることとなります。赴任して最初の 2-3 年はチュニジアの国内旅行というよりはヨーロッパに旅行することが多かったのですが、2020 年のコロナ以降の 2 年間はチュニジア国内を訪問・旅行して様々な発見があり益々チュニジアの魅力に気づかされました。この「途上国アルバム」では、そんなチュニジアの魅力を少し紹介したいと思います。

まず、日本人がチュニジアと聞いて思い浮かべることは、カルタゴ（写真 1, 2）ではないでしょうか。その他にも、チュニス近郊には、モザイクのコレクションが豊富なバルドー博物館（写真 3）、チュニジアンブルーと白壁の調和が美しく、地中海の絶景を望めるシディブサイド（写真 4）などがあります。一方で、おそらくヨーロッパ人がチュニジアと聞いて最初にイメージするのは格安リゾート地のハマメットやスースだと思います。もしくは、砂漠ツアーやマトマタの穴居住居などかもしれません。実は、チュニジアはヨーロッパの若者には人気の旅行先（特に卒業旅行など）になっており、夏のリゾート地はヨーロッパ・ロシア・中東からの観光客で満室となります。チュニジアには数多くの特徴の異なる観光名所があるのですが、観光大国のモロッコやエジプトに挟まれたチュニジアは日本人にはあまり知られていないような気がします。5 年間の滞在中にチュニジアの有名な観光地はほぼ制覇したので、カテゴリー別に紹介します。



写真 1 カルタゴ遺跡



写真 2 カルタゴのアクロポリウム



写真 3 バルドー博物館



写真 4 シディブサイド

### 1. サハラ砂漠ー砂漠キャンプの旅 (写真 5)

有名なのは国際空港がある砂漠の玄関口であるオアシス都市トゥズールですが、本当の砂漠体験をするのであれば砂漠キャンプで一泊すると面白いです。トゥズールから車で2時間のドゥーズから四輪駆動で砂漠の中を道なき道を2時間かけてキャンプに到着します。実は、砂漠は平たんではなく、かつ小さな木も結構あることに気付かされます。2時間の道中はかなりの揺れの中で過ごすことになるので、大変疲れますが、キャンプのそばに広がる砂漠の山の上からみる景色はもう別世界で、砂漠が果てしなく広がっています。

### 2. ローマ時代の古代遺跡ードゥッガ遺跡など (写真 6)

チュニスの郊外にあるカルタゴ（カルタージュ）にはポエニ戦争の際の軍港や、アントニヌス浴場などがあります。ただし、遺跡の規模としては小さく、大きな遺跡や保存状態が良い遺跡はチュニジア中部に点在しています。エルジェムの円形闘技場やドゥッガ、スベイトラなどが有名です。ローマなどにある古代遺跡には丁寧に一つ一つ説明書きがありますが、こちらはガイドブックに載っているような有名な遺跡を訪れても説明書きさえありません。遺跡の上に乗っかってピクニックをしている人がいることには驚きました。

### 3. マトマター穴居住居、クサール（砦） (写真 7, 8)

チュニジア中部にジェルバ島という昔ユダヤ人が住み着いていたリゾート地があるのですが、そこから車で2時間ほどいくとマトマタという洞窟の穴居住居がたくさんある地域にでます。スターウォーズの映画によく出てくる、古代に倉庫につかっていた、クサールという砦も、この地域に点在しています。



写真 5 キャンプマース



写真 6 ドゥッガ遺跡



写真 7 マトマタの穴居住居



写真 8 メドニンのクサール（砦）

#### 4. 格安リゾート (ハマメット、スース) : オールインクルーシブ

ハマメットやスースなどのリゾート地のホテルは、オールインクルーシブという形態をとっている格安リゾートホテルがたくさんあります。家族4人で一泊約3~4万円程度で、いつでも食べ放題・飲み放題、夜のショーやイベントも見放題、ウォータースライダーやスポーツ施設も使い放題で、かなり楽しめます。ヨーロッパ・中東からは数週間滞在する長期滞在型観光客が多いようです。

#### メゾンドット

チュニジアの観光地には中級ホテルはそれなりに充実しているのですが、エジプトやモロッコなどに比べて高級ホテルは不足しています。(五つ星ホテルはたくさんありますが、それはあくまでチュニジア政府が認定している五つ星なので、グローバルスタンダードでの五つ星ではありません。) 一方で、Maison D'hote (メゾンドット) と呼ばれる B&B のペンションが充実しています。国内旅行の時はいつもメゾンドットに泊まることにしているのですが、だいたい世話好き、話好きなオーナーが多いので、地元のおすすめスポットや特有の風習・歴史などを教えてくれて、旅行が更に面白くなります。また、他の宿泊客ともラウンジなどで話す機会もあるので、新たな出会いもあり楽しいのでお勧めです。(写真9)



写真9 ジェルバ島のメゾンドット



写真10 マルシェの店舗



写真11 クスクス



写真12 ハリッサとパン

### チュニジア料理・食事

チュニジアのマルシェ（写真 10）ではチュニジア産の新鮮な野菜が安価に手に入れることができます。日本のようにきれいな形をしているものを選んでいくわけではないので、時々とんでもない形をした野菜たちに出会うこともあります。そのような食材を使ってできたチュニジア料理は、日本人の口にはやや脂っぽい、または辛すぎる（ハリッサ）ことが多いと思います。ハリッサ（写真 12）とは赤唐辛子をペースト状にしたもので、チュニジア料理では何にでも使用します。フランスパンを食べる時もオリーブオイルとハリッサを付けて食べますし、サンドイッチにもマヨネーズとハリッサをまず塗ります。トマトスパゲティも大抵ハリッサが入っており辛いものです。クスクス（写真 11）、ラブラビ、ドワ・ドウ・ファトマなどは私の好物なのですが、日本人の口に合った味付けをしているレストランは数少ないです。

### 終わりに

経済の長期停滞、不安定な政治状況、ウクライナ・ロシア戦争の影響など、チュニジアは国として非常に厳しい状況が続いています。インフレ率も徐々に上がってきており、庶民の生活は日に日に厳しくなっているのを感じます。2011年にアラブの春の発端となったジャスミン革命を経験しアラブの国で唯一民主化に成功した国なのですが、革命によって庶民の生活が良くなったと感じている人はおらず経済の低成長が続いています。チュニジア人は人懐っこくて世話好きな反面、決して勤勉ではありません。高い失業率もあって、昼間のカフェはシーシャを吸いながらコービーを片手に談笑しているチュニジア人男性で混みあっています。また、南北の地域間経済格差が激しく、チュニジア南部を旅行してみると、チュニス郊外の街並みがある国と同じ国とは思えないほど貧しいことがわかります。失業率は16%程度で、若者の失業率に至っては35%程度となっており、若者が将来に希望を見出すことが難しい状態になっているのも事実です。

政治的にも、サイド現大統領が昨年夏に議会を停止して権力を掌握し、憲法改正の国民投票（今年7月）や国会議員選挙（12月）などの予定を発表しましたが、大統領支持派と反対派で国内は二分されており、一方でIMFからの緊急融資を受け入れるために必要な様々な改革を合意する目途も全く立っておらず、今後の状況が危惧されています。チュニジアにお世話になった身としては、教育水準の高さ、高いインフラや医療水準、安価な労働力などチュニジアの強みを生かせるような成長が実現できることを願っています。Inshallah！